

青山先生の授業解説!

——「思いやりのデザイン」(四上)

筑波大学附属小学校教諭

青山由紀

青山先生に、「言葉による見方・考え方を育む手立て」という観点から、「自身の授業を解説していただきました。」



筑波大学附属小学校教諭。日本国語教育学会常任理事。全国国語授業研究会常任理事。著書に『「くちばし」「じどう車くらべ」「どうぶつの赤ちゃん」全時間・全板書』(東洋館出版社)、『こくこの図鑑』(小学館)などがある。光村図書小学校『国語』『書写』教科書編集委員。

「思いやりのデザイン」は、通常は、一時間で扱うことが想定されていますが、今回は、二時間の授業を構想しました。第一時は、文章構成について、第二時は、筆者の例示の工夫について考えていきます。

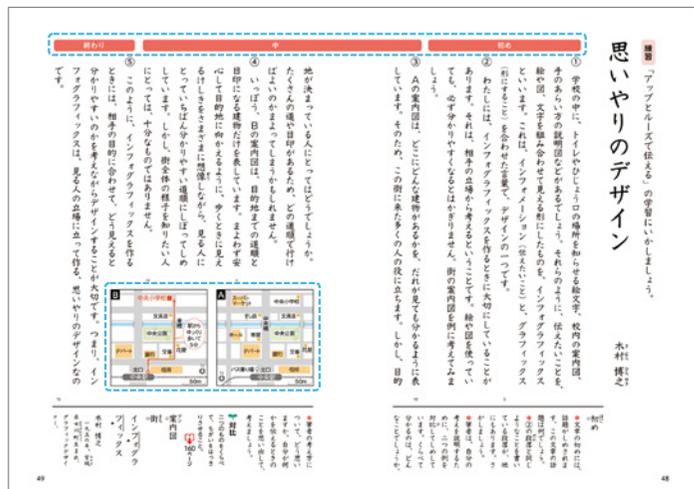
葉をどう子どもたちに理解させるかを主眼に取り組みました。

今回は、「初め」「中」「終わり」の文章構成について自分たちで考えさせたかったので、教科書の文章構成を示すバーを抜いたものをプリントとして用意しました。また、プリントからは、二つの案内図もあらかじめ抜いておきました(※)。なんとなく読むのではなく、資料と言葉を照らし合わせて読む体験をしてほしかったからです。ヒントになる言葉を文章から探して読み、それを言葉で説明する学習活動を第一時に設けました。

第二時では、「対比」という抽象的な言葉

- 第一時**
- 1 題名を読む
 - 2 教材文を読み、文章構成について考えを出し合う。
 - 3 どちらの図がどの段落に対応するか考える。

- 第二時**
- 1 第三・四段落の事例を詳しく読む
 - ・ Aの図の事例は、どんな立場の人に役立つか
 - ・ Bの図の事例は、どんな立場の人に役立つか
 - 2 文章構成をおさえる
 - 3 対比の例示をおさえる



※1… の部分を除いたプリントを用意

第一時

1 題名を読む

授業が始まり、今日は何をするのかわくわくした様子の子どもたち。まずは、黒板に「思いやりの」と書き、子どもたちに問いかけます。

- 青山** 「思いやりの」の後には何が続くと思う?」
- 児童** 「心」
- 児童** 「気持ち」
- 青山** 今回は、「思いやりのデザイン」という題名です。
- 児童** そういうことか。
- 青山** どういうことかな。
- 児童** 障害がある人にもわかるデザインについての話だと思う。
- 児童** 物じゃなくて、思いやりですることについてだと思う。

子どもたちは、思い思いに文章の内容を予想し始めました。

ここがポイント!



題名の言葉に着目し、読みの構えをつくる

最初に、題名を全部書かずに「思

いやりの」とだけ書いて子どもたちに問いかけました。「思いやり」は、子どもにとっては人に対する気持ちに使う言葉。それが「デザイン」という言葉とあわさったときに、どういうメッセージになるか、それが筆者の主張につながります。

四年生になると、筆者の主張が題名に表れる教材文が多くなります。題名の言葉に立ち止まり、着目することで、筆者の主張を予想して読むための構えをつくることができます。

低学年の教材文では、題名に説明される事物そのものが表れていることが多いので、題名の言葉と自分の経験や知識とを結び付けて読む構えをつくりやすいです。低学年、中学年と経験を重ねることで、題名の言葉から内容を予想しながら読むことができるようになると思います。

2 教材文を読み、文章構成について考えを出し合う

教材文のプリント(※)を配布し一段落ずつ音読した後、「初め」「中」「終わり」

の分け方について話し合いました。子どもたちからは、「初め」を第一段落とする意見と、「初め」を第一、第二段落とする二つの意見があり、第二段落に何が書かれているかに着目することになりました。

- 児童E** 第一段落はインフォグラフィックスについての説明で、第二段落は、木村さんだけが思っていることを書いていると思う。
- 青山** Eさんは、第二段落は一般的なことではない、木村さんが思っていることだと言っていたけど、どこからそう思ったのかな。
- 児童** 「わたしには」と書いてある。
- 教室に投影した教材文の「わたしには」を青で囲み、第二段落には筆者の考えが書かれ、話題が提示されていることをおさえました。

ここがポイント!



筆者の考えをおさえるときは主語や文末表現に着目

第二段落に筆者の主張が書かれていることをおさえるため、主語や文

未表現を確認しました。三年生までの説明文では、筆者が前面に出てくることが、あまりありませんでした。筆者である「わたし」の主張が前面に出てくるのが、四年生からの説明文の特徴ですね。

③ どちらの図がどの段落に対応するか考える

AとBの記号を消した二つの案内図(※2)を配りました。たくさん子どもが手を挙げ、どちらの図が本文の案内図A・Bに対応するか、自分の考えと理由を発表しました。

児童M

右の図には、バス停とか本屋とか載っているけど、左の図には載っていないでしょう。この道順の近くの道しか載ってない。だから、中央小学校に行きたい場合は、どこから行ったらいいかわからない。初めて来た人は、右の図だといっぱい道があるから迷う可能性がある。だから右の図がA、左の図がBだと思う。

第二時

① 第三・四段落の事例を詳しく読む

青山

第三段落から事例を使った説明が始まります。Aの図の例だね。この図は、どんな立場の人にとって役立つのかな。

児童

目的地はまだ決まっていなくて、この街に初めて来た人たちに役立つ。

青山

ということは、逆に言うって？

児童H

目的地が決まっている人にとっては見にくい。

青山

それは、Hさんが思ったこと？

児童H

教科書に、「しかし、目的地が決まっている人にとってはどうでしょう。——まよってしまったり、もしかたありません。」と書いてあるよ。証拠が書いてあるね。「しかし」を青で四角く囲んでおいてください。

青山

教室に投影した教材文の「しかし」を青ペンで囲みました。

青山

じゃあBの図の例は、どんな立場の人にとってよかったのかな。証

青山

Mさんは右の図は建物がいっぱい載っていると聞いたんだよね。左の図は……。

児童

矢印！

青山

教科書にはなんて書いてある？

児童

道順。

青山

さっきMさんも道順が載っているって言っていたね。教科書には書いてないけどこの人はどこからどこへ行くこうとしているの？

児童

中央駅から中央小学校。

青山

左の図は、中央駅から中央小学校へ行く人にとってはとてもわかりやすいということですね。

本文をしっかり読み、納得した子どもたち。案内図をそれぞれプリントの対応する箇所に貼りました。

ここがポイント！



子どもが言葉に着目するしかけをつくる

子どもたちは、どの図とどの文章が対応するか考える中で、文章から手がかりになる言葉を見つけようとします。最初から図があるとなんとなく読んでしまいますが、こうした

で、教室からつぶやきが聞こえてきました。

児童N

また「しかし」がある。AとBが合体してくれればいいんだけどな。Nさんが「また「しかし」がある……」と言っているね。その気持ちがかかる人はいるかな。

青山

四段落目の最後に、「しかし、街全体の様子を知りたい人にとっては、十分なものではありません。」とあるから、(中略) AのいいところはBの図で欠けているし、BのいいところはAの図で欠けていると思う。

児童K

ここがポイント！



子どものつぶやきを逃さない

手を挙げるばかりが、授業に参加する態度というわけではありません。つぶやく、うなずく、首をかしげるといった反応を拾いあげると、周りの子ども反応します。そうした子どもの小さな反応を見ることが、どこまで理解しているかわかります。子どもの発言やつぶやきを受けて、「今の○○さんの気持ちがわかる人」と

ここがポイント！

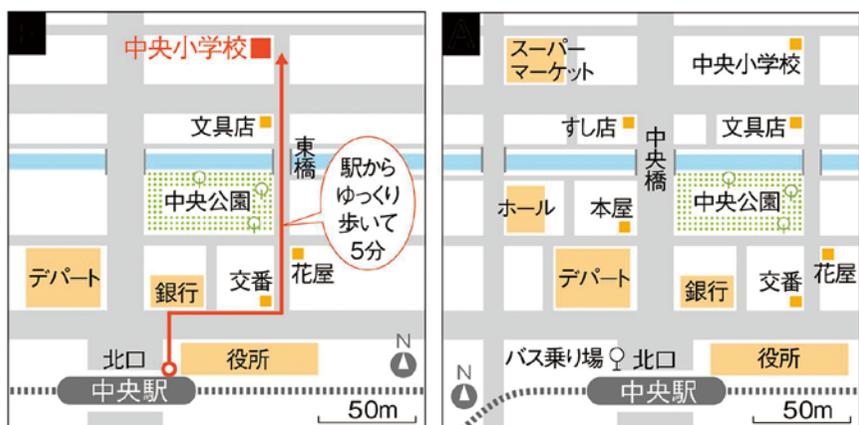


問い返して教材文に返らせる

子どもたちが自分の考えを話すときには、「できるだけ、「どこからそう思ったの?」「どこかに証拠はある?」と問い返すようにしています。最初は問い返されてから根拠となる言葉を挙げていた子どもたちも、だんだんと自分から証拠を挙げて考えを話すことができるようになってきます。そうすると、同じ考えでも、「証拠が他にもあるよ」などと、多面的に文章を読んでいくことができるようになります。

それぞれの図がどんな立場の人にとってわかりやすいのかをみんなで考えていく中

しかけをつくることで、子どもたちの読み方が変わってきます。文章はもちろん、図や表の内容もしっかり読むことになります。



※2

発言者ではない子どもたちに問いかけます。四・五月は、発言している子の言葉を聞きながら、手を挙げていない子をどうやって授業に参加させていくか試行錯誤していく時期ですね。

児童 Kさんの発言を受けて、子どもたちに問いかけます。

青山 Kさんが言ったこと、「自分の言葉で言えるよ」という人はいますか。

児童

Aの図は、目的地が決まっていない人にはわかりやすいけど、目的地が決まっている人にはわかりにくくて、Bの図は、目的地が決まっている人にとっては分かりやすいけど、Aみたいに目的地が決まっていない人にはわかりにくい。Aは、Bのものが欠けていて、Bは、Aのものが欠けている。

青山

児童

今のわかった？ 自分の言葉で言うことは、けっこう難しいんだよ。Aの図の例は、目的地が決まっていない人にはわかりやすいけど、目的地が決まっている人にはわかり

青山

りにくくて、Bの図の例は、(中略)だからAは……。

児童Y

わからなくなってきた？ これややこしいのよ。ヘルプのできる人AとBは長所と短所が逆になっていて、Bのわかりにくいところが、Aのわかりやすいところと同じになっているから……AはBの逆であり、BはAの逆であり……。みんなは、Yさんが「逆」って言っている意味わかった？ どうも第三段落と第四段落の例がセットみたいになっているね。言葉で説明してみると難しいね。

青山

ここがポイント!



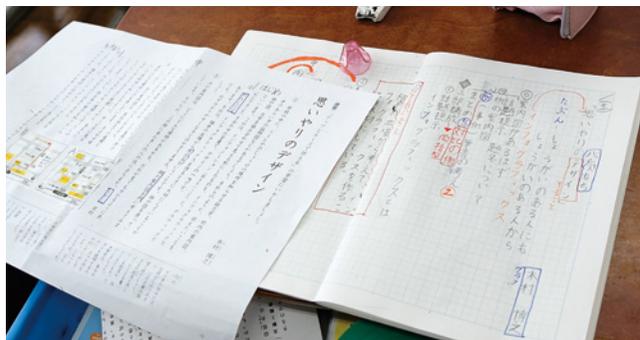
抽象度の高い言葉は、
何度も自分の言葉で
表現することで理解
していく

Kさんの「AのいいところはBの図で欠けていて、BのいいところはAの図で欠けている」という発言から、子どもたちの説明の抽象度がアップしてきました。この単元で学習したい「対比」は、説明するときの常とう手段ですが、四年生にとっては、

2 文章構成をおかせる

青山

第五段落と第二段落は似ていると、一時間目に何人か言っていたね。第五段落に筆者の考えはあった？



児童

「相手の目的に合わせて、どう見えると分かりやすいのかを考えながらデザインする」というところ。「目的に合わせて」という言葉は、第二段落にはなかったよね。

青山

児童

「相手の立場から考えて」とあるよ。なるほど、「相手の目的」は、「相手の立場」と同じなんだ。「合わせて」は、「考えて」。ほぼ同じ。バージョンアップ結論。

青山

児童

両括型！(※3) ということは、何型かな。ということは、第二段落と第三段落の間で区切れば、「初め」と「終わり」に筆者の考えがあつて、「中」に例がある、三部構成になるね。

3 対比の例示をおかせる

青山

AとBの両方の図を使って例を挙げているのはどうして。例は一つでもいいんじゃないかな。

児童

第二段落に「必ず分かりやすくなるとはかぎりません。」とあるでしょ。それをAとBセットで説明している。

青山

そのときに、二つが際立つことを

ここがポイント!



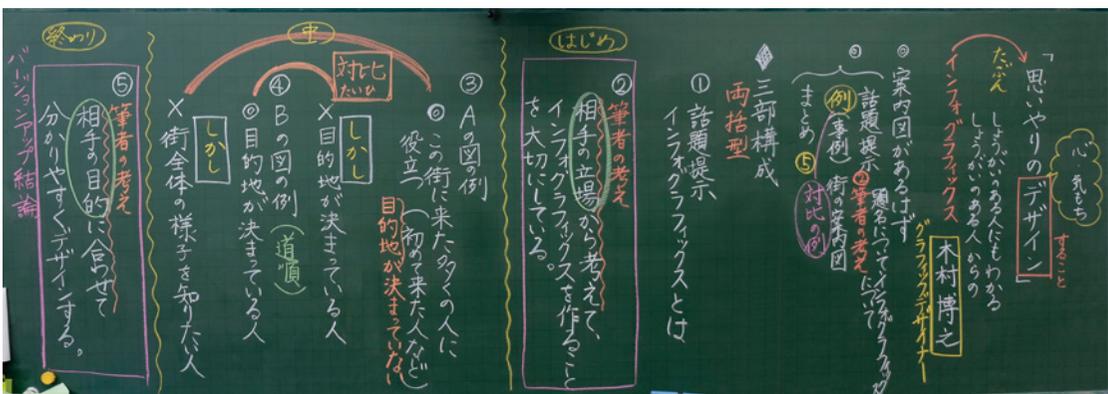
前後の単元も見通してポイントを見つける

対比といえます。前にやつたよ。詩で出てきた。説明する文章にも「対比」が使えるんだね。「中」に対比の例を使った説明のしかた。そして両括型。この説明文は、ここがかつたよかつたね。

児童

青山

「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、たくさんある言葉の中で何をキヤッチしたらよいか、手がかりになる言葉を見つける力を自覚化していくことだと思います。授業を構想するとき、単元ごとどの言葉に立ち止まらせるかを考えてしまうと、近すぎて見えにくくなります。その単元の中だけでなく、前後のつながりを意識して考えると、どんな言葉に立ち止まり、どのように表現していくか、ポイントがはっきりしてくると思います。他の学習場面や言語生活で使える力を積み重ねていくというイメージを大切にしています。



※3…青山先生のクラスでは、筆者の考えが初めと終わりにある文章を「両括型」とよんでいます。「双括型」という言い方もあります。